

「フォルムとテクニク」：ジュネーヴにおいて IWCシャフハウゼンが力強いデザインを称賛する インチュニア・オートマティック40を発表

シャフハウゼン/ジュネーヴ、2023年3月27日。ジュネーヴで開催されるウォッチズ&ワンダーズにおいて、IWCシャフハウゼンはインチュニア・オートマティック40を発表いたします。インスピレーションの源となったのは、1970年代のジェラルド・ジェンタのインチュニアSLでした。この時代の特徴は、デザインに対する切り詰められた技術的なアプローチにありました。この時代にオマージュを捧げるために、新しいインチュニアは「フォルムとテクニク」というモットーのもとで披露されます。ブースで目を惹くのは、この時代のレトロでありながら未来的な、印象的なデザインの試作車、メルセデス・ベンツC 111-IIIです。あこがれの的となっているヴィトラ社製の家具も置かれ、デザイン重視の姿勢が強く打ち出されています。さらに、IWCダイヤモンド・ハンド・クラブのメンバーを対象とするメタバースでのインチュニアのスペースでは、ジェラルド・ジェンタの独特な芸術スタイルが未来に向けて繋がっていきます。

1970年代、時計デザイナーのジェラルド・ジェンタは、一連のラグジュアリーなスチール製スポーツウォッチのひとつとして、インチュニアSL (リファレンス1832) をつくりました。そのユニークな視覚的アイデンティティは、今年のウォッチズ&ワンダーズでIWCが発表する新しいインチュニア・オートマティック40にインスピレーションを与えました。1970年代が力強いデザイン表現の時代だったことを踏まえ、ブースのモットーとなったのは「フォルムとテクニク」でした。「フォルムとテクニク」という言葉をドイツ語で表現することで、IWCのルーツがドイツ語圏のスイスにあることを示しているだけでなく、この時期には進歩主義的で技術的な性格をもつドイツの産業デザインが一世を風靡したことを示唆しています。

スチール製プレートから現れる インチュニア

インチュニア・オートマティック40は、このデザインへの機能的なアプローチにふさわしく、高い技術力に裏打ちされ、削ぎ落した機能美をわかりやすく展示します。このコレクションは大きなスチール製プレートに組み込まれ、来場者はウォッチの構造的な美しさをじっくりと

眺めながら、複雑な製造工程について詳しく知ることができます。この展示では、IWC初の民生用の耐磁性腕時計の歴史も発見することができ、このウォッチファミリーの1976~2013年の進化が明らかになります。新しいインチュニアは、メタバースでも体験することができます。新たに設計されたインチュニアのスペースにおいて、IWCダイヤモンド・ハンド・クラブのメンバーは、IWCのスペシャリストから直接、このタイムピースの開発について学ぶ機会が得られます。

新たに発見された インチュニアSLの図面

またジュネーヴでは、ジェラルド・ジェンタが手描きで彩色したオリジナルのインチュニアSLの図面が初めて一般に公開されます。この水彩画は紛失したと考えられていましたが、最近、IWCミュージアム館長デーヴィッド・セーファー率いるチームによって発見されました。このイラストには、紙やスケール、色あいの八角形のリューズにいたるまで、オリジナルのジェラルド・ジェンタのデザインの多くの特徴が見られます。これが本物であることは、調査の上、ジェラルド・ジェンタ継承協会によって正式に認められました。

目を惹くメルセデス・ベンツC 111-III

ブースで目を惹きつけるのは、メルセデス・ベンツC 111-IIIです。この車は、1970年代に新しいエンジンと材料をテストするために製造された一連の試作車のひとつでした。このボディは、空気力学を最適化することを目的として精密にデザインされ、「フォルム（形）は機能に従う」というエンジニアリングの完璧な例となっています。機能性と技術的細部を重視したこのコンセプトカーは、1970年代当時のデザイントレンドを象徴しています。

ヴィトラ社製の家具を備え付けたラウンジエリア

ラウンジエリアでは、来場者はスイスの家具メーカー、ヴィトラが提供するチャールズ&レイ・イームズ夫妻のロビーチェアES104などの、あこがれの的となっている家具でくつろぐことができます。チャールズ&レイ・イームズ夫妻は、20世紀のデザインを代表するデザイナーです。1957年以来、この夫妻のヨーロッパと中東向けの製品の唯一の認定メーカーとなったのがヴィトラ社でした。このデザイナー夫妻の作品の特徴は、機能的なデザインとディテールへのこだわりとの組み合わせです。こうしたアプローチは、驚くほどハイレベルなディテールと高品質な処理と仕上げが施された新しいインチュニアにも見て取ることができます。

クロノグラフの「参照基準」となっているIWC

ブースでは、IWCのクロノグラフに対する深い理解が得られます。IWCの伝統は、堅牢性と精度の点で区別されるプロ仕様のウォッチに深く根ざしています。この伝統は、40年以上にわたり、時計産業が提供しうる最高級のクロノグラフを製造する原動力ともなってきました。性能、機能、品質に関する妥協ないアプローチにより、IWCは機械式クロノグラフの「参照基準」となっています。ジュネーヴ

では、IWCはパイロット・ウォッチ、ポルトギーゼやポルトフィノ・コレクションのクロノグラフを展示します。いずれも、堅牢性、精度、耐久性を重視して設計されたキャリアー69000ファミリーのIWC自社製ムーブメントを搭載しています。IWCのクロノグラフの典型的な特徴となっている垂直な文字盤レイアウトは、デザインへの機能的アプローチによって得られたもので、これによって視認性が大幅に向上しています。

IWCの試験プログラムの紹介

来場者は、厳格な品質・型式試験プログラムを実施しているシャフハウゼンにあるIWCの実験室を確認することができます。どの新しいムーブメント、複雑機構、ウォッチリファレンスも、通常の条件下と極端な条件下での10年以上の着用をシミュレーションした、数十件に及ぶ試験が課せられます。ジュネーヴでは、耐食・耐摩耗性のための浸漬試験、クロノグラフ向け過圧試験、加速させた輪列摩耗試験、および耐磁試験のための、4つの特注の品質試験装置が展示されます。

CYBERLOUPE®を用いた時計製造のデモンストレーション

時計メーカーのテーブルでは、来場者はIWCが複数のIWC自社製ムーブメントに魔法をかけるようすを観察することができます。特許取得済みのCyberloupe®により、時計内部の小さな部品もじっくりと眺めることができます。シャフハウゼンで開発、設計、製造されたCyberloupe®は、高解像度カメラとネットワーク接続を備えた世界初のデジタル化された時計メーカーの拡大鏡です。このデジタルツールは、2020年に導入されて以来、たえず改良され、アップデートされてきました。ごく最近も、IWCは幅広い拡張現実（AR）機能を組み込んだCyberloupe® 3.0を導入しました。

IWCシャフハウゼン

IWCシャフハウゼンは、スイス北東部のシャフハウゼンに拠点を置く、スイスの大手高級時計メーカーです。ポルトギーゼやパイロット・ウォッチなどのコレクションを擁するこのブランドは、エレガントな時計からスポーツ時計まで、あらゆる種類の時計を扱っています。1868年、米国の時計技師でエンジニアでもあったフロレンティン・アリオスト・ジョーンズが設立したIWCは、人間ならではの職人技と創造性、その最良の部分と最先端の技術および工程とを組み合わせ、時計製造に対する独自のエンジニアリングで知られています。

150年以上にわたる歴史の中で、IWCは精巧かつ丈夫で使い勝手のよいプロ仕様の計器時計や、複雑機構（とりわけクロノグラフとカレンダー機能）を組み込んだ時計をつくり、高い名声を得てきました。チタンやセラミックの採用の先駆者であるIWCは、現在、カラーセラミック、セラタニウム®、チタンアルミナイドなどの先進的な素材を用いた、高度なエンジニアリングと専門知識を駆使したケースも製造も行っています。

持続可能な高級時計の第一人者であるIWCは、責任をもって素材を調達し、環境への影響を最小限に抑えるための努力を惜しみません。透明性、循環、責任という3つの柱に沿って、このブランドは何世代にもわたって長持ちする時計をつくり、責任をもって製品を製造、流通、修理するためのあらゆる要素を継続的に改善しています。さらに、IWCは子供たちと青少年への支援に向けて世界的に活動している組織とも提携しています。

ダウンロード

2023年ウォッチズ&ワンダーズでのIWCのブースの画像は、press.iwc.comで無料ダウンロードいただけます。

お問い合わせ

IWCシャフハウゼン

広報部門

Email press-iwc@iwc.com

Website press.iwc.com

インターネットおよびソーシャルメディア

Website iwc.com/ja

Facebook facebook.com/IWCWatches

YouTube youtube.com/iwcwatches

Twitter twitter.com/iwc

LinkedIn linkedin.com/company/iwc-schaffhausen

Instagram instagram.com/iwcwatches_jp

Pinterest pinterest.com/iwcwatches